

平成29年度実績報告の概要(小規模事業経営支援事業費補助金関係)

団体名: 渥美商工会

事業名	事業概要(背景・目的)	事業実績	主たる対象者	事業評価														
				目標①			目標②			得られた効果			ABCD評価			今後の展開・改善点等		備考
				指標	実績数値	目標数値	指標	実績数値	目標数値	総合評価	事実評価	調査結果	満足度	必要性	補足	目標	実施方法	
巡回・窓口相談指導事業	一般的に経営基盤の弱い小規模零細企業を中心に、経営指導員等の商工会職員が事業所へ訪問し、融資等の金融相談・申告時期の税務相談・労務相談等経営全般について様々な相談への指導をすることにより経営及び技術の改善を図り、健全な企業を育成する。また、創業予定者を始めとした経営全般に係る相談窓口の設置により、経営改善に資する指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 巡回窓口指導実企業数267企業(内、非会員20企業) 巡回窓口指導延件数788件(内、非会員46件) 課題解決提案件数32件 	小規模事業者	指標	巡回窓口指導延件数 (達成度 131.3%)	指標	課題解決提案件数 (達成度 160.0%)	地域性により、御用聞き巡回指導は極力実施しない中で、窓口指導は専門家派遣など充実していたと思う。金融に関しては昨年度より件数は下がったが普通貸付、マル経を始め県融資推薦と均等に案件があったが、今後同様に地元金融機関との連携をより一層図ってきたい。また、持続化補助金相談増加により、企業の現状が表面的ではなく、具体的に理解できるようになった。	総合評価	A	事実評価	自己評価 B 目標達成度 A	調査結果 B 必要性 A	満足度 B A	補足	目標 両方現状維持 実施方法 両方現行どおり	事務体制の変更(職員1名増)により、金融、税務を中心に支援を充実させる。また、地元金融機関との連携による県資金及びマル経推薦件数の増加を目指す。課題として、昨年度は経営革新計画の案件が無かったため、巡回窓口指導の中で積極的に提案する。	
記帳継続指導	商工会の職員が、個人事業主等を対象に正しい記帳方法や決算等の指導を行い、適正な税務申告と経理の自計化や計数管理による経営力の向上を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 事業を進めていく上で、日々の記帳の重要性について理解していただくとともに、決算・申告に結びつく指導をする。 指導対象事業者数 92件 指導日数 686日 指導回数 909回 	小規模事業者	指標	指導対象事業者数 (達成度 101.1%)	指標	(達成度 %)	年間を通しての記帳指導と源泉・年調・決算申告の指導を通し、申告納税制度への理解と正しい記帳による正しい申告の重要性を認識してもらえた。また、e-Taxiによる電子申告も多くの事業者がその利便性を認識し、理解が深められた。	総合評価	A	事実評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果 A 必要性 A	満足度 A A	補足	目標 上げる 実施方法 現行どおり	申告納税制度への理解を深め、正しい記帳・申告を推進し、経営力の向上を支援していく。	
講習会事業	多様化する経営環境に対応するため、小規模事業者にとって必要な経営・金融・税務・経理・労働・情報化等の知識習得や時事的な問題についての啓蒙を図り、小規模事業者が抱える経営上の問題点に対応する実務的な講習会及び個別指導会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 集団講習会 2回 31件(経営一般1回 12件、税務1回 19件) 個別指導会 26回 172件(経営一般2回 7件、金融1回 3件、税務23回 162件) 	小規模事業者	指標	講習会参加者数 (達成度 100.0%)	指標	(達成度 %)	会員ニーズに応え事業計画の捉え方、自社の経営・市場分析など企業が抱える課題の解決策を見出すことができた。税務については、自主記帳等の意識が年々高くなり、個々にあった指導を実施することができ、受講者の能力向上に繋がった。	総合評価	A	事実評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果 B 必要性 A	満足度 B A	補足	目標 上げる 実施方法 現行どおり	講習会を通じて伴走型の個別指導へと繋げていく。	
祭典事業(あつみ夏まつり)	地域住民の賑わいやふれあいを通じて「まち」の活性化を図るとともに、今後の地域の産業発展を目指して、夏の風物詩である夜店「あつみ夏まつり」を開催し、地域の内側から「まち」の元気を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 商工業者の販売促進に抽選券を発行し、「あつみ夏まつり」会場にて抽選会を開催。バザーや地域商工業者による物産展(笑店街)を開催。 実施時期 夏季1日 来場者数 10,000人 会員出店者数 19件 各種団体者数 16団体 	商工業者	指標	笑店街参加企業数 (達成度 95.0%)	指標	(達成度 %)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地区商工業者に協賛金を募り抽選券を発行することで消費者の購買意識の向上が図られた。 2) 商工業者が自ら出店する機会を与えることにより地域住民との密接な交流を図れ自店のPRに務めることができた。 3) 出店者は地域活性化に対する意識が高まり、地域への関心と自店発展への向上効果が図れたと思う。 	総合評価	A	事実評価	自己評価 A 目標達成度 B	調査結果 B 必要性 A	満足度 B A	補足	目標 現状維持 実施方法 現行どおり	本事業は成熟期にあり内容自体が慢性化してきている。本年は会場の選定、事業内容など再検討し、更なる充実を図る必要がある。また良くも悪くも意見が出るという事は、本事業に意識がある表れであり、少しずつではあるが意識の変化が現れ始めたように思われる。今後は意見を参考として、より一層の事業発展を目指したい。	

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。

地域振興事業(貝づくし渥美事業)	渥美半島の観光資源を活かした物産品開発や観光サービスについて調査・研究・開発を行った。結果、渥美の観光食材づくりの位置づけとして、「貝」を取り上げ、平成21年2月14日を皮切りに「貝づくし渥美」をスタート、内容は、渥美地区全域に「貝」を浸透させ、「貝づくし渥美」を根付かせ、観光客へ「貝づくし渥美」をPRし活気ある観光地への位置づけを目的とする。	4月8日は貝の日イベント開催 渥美あさり・大あさり半平太・半島で採れる貝を使用し、各店オリジナル料理のスタンプラリーを平成28年4月8日(貝の日)より2年間実施。(本年度は2年目)地元漁師との連携を強化。「渥美の貝は日本一!」のキャッチコピーを定着させ地域内外からの消費拡大を図った。 加入件数及び構成員数 20件	飲食店、宿泊施設を中心とした商工業者	指標 加入件数及び構成員数 (達成度 90.9 %)	指標 (達成度 %)	2年間実施してきたスタンプラリーの販売食数は1万5千食程で前年度をやや下回った。貝が好まれる中で、あさり、大あさりの漁獲量低迷によることが要因と思われる。貝の日のPRを積極的に行うことにより、世間の施設や個店でも貝の日イベントを実施したり問い合わせがあり地道ではあるが効果の実感できた年度であった。	総合評価	B	事業実施評価の 自己評価 B 調査結果 事業者への 目標達成度 B	満足度 B 必要性 A	補足	目標 現状維持 実施方法 現行どおり	地道なPR活動を続けることによる効果を実感するため、「渥美の貝は日本一」の「貝の日」をメディアに載せる努力をすること併せ、安定した供給ができるよう関係者との情報共有をより密にする。
商工業振興事業(ポイントカード等推進事業)	ポイントカード事業の推進により、顧客確保、商圏内からの購買力の流出防止や大型店対策を図り、商工業者の発展及び地域産業の活性化を図る。	販売促進並びに消費者サービスを目的として、カード事業の宣伝活動及び共同売出し、抽選会、招待会等のイベントを開催。 折込チラシ等販売促進イベント回数 21回	事業加盟店	指標 販売促進イベント回数 (達成度 105.0 %)	指標 (達成度 %)	共同でイベントや店舗情報を消費者へアピールすることによるスケールメリットを感じられ、新規顧客の確保・購買力の流出防止に繋がることができた。	総合評価	A	事業実施評価の 自己評価 A 調査結果 事業者への 目標達成度 A	満足度 B 必要性 A	補足	目標 現状維持 実施方法 現行どおり	イベントがマンネリ化しないように常にイベント内容を精査し、加盟店の負担にならない、簡単に誰もが楽しめるイベントを模索する。
観光振興事業(グリーン事業)	地域小規模事業者が一同となり、渥美半島＝観光地という認識を高め、お客様を迎える体制作りをする為にも、観光地にとって大きな比重を占める清潔度を取り上げ、小規模事業者による渥美半島グリーン事業を行う。	観光の活性化として渥美半島の代表的な観光地である伊良湖岬周辺の清掃活動を重点的に実施。 6月17日(土)開催 参加者数520人	商工業者、ボランティア	指標 参加企業者数 (達成度 433.3 %)	指標 (達成度 %)	伊良湖岬は観光地であるという認識を高め、企業が協力し合って、観光客を迎える体制作りができ、「綺麗な観光地」のイメージを形成することができた。	総合評価	A	事業実施評価の 自己評価 A 調査結果 事業者への 目標達成度 A	満足度 A 必要性 A	補足	目標 現状維持 実施方法 現行どおり	観光地であることに意識を高め、集客するためには何が必要かを常に考えさせるよう企業の意識改革に努める。
人材育成事業(外国人実習生受入事業)	外国人技能実習生受入企業の活性化と国際貢献を目的として、外国から意欲ある優秀な若者を受け入れ、わが国の優れた「技術・技能・知識」を職場で実際に作業をしながら習得し、帰国後に母国の産業振興に寄与できる人材の育成を図る。	新規受入人数 5人	渥美商工会会員	指標 技能実習生新規受入人数 (達成度 100.0 %)	指標 (達成度 %)	小規模事業者の慢性的な人材不足が、技能実習生の受け入れを行うことで安定的な人材を確保し生産活動を維持継続が可能となっている。	総合評価	A	事業実施評価の 自己評価 A 調査結果 事業者への 目標達成度 A	満足度 A 必要性 A	補足	目標 上げる 実施方法 現行どおり	新たな受け入れ企業の発掘に努める。
青年部・女性部事業	青年部・女性部員間での交流や社会福祉を通じて地域との関わりを持つことにより、地域社会の発展に寄与する。	講習会、研修会及びコミュニケーション活動の開催及び、地域活性化事業等本会事業への参加。また、随時、常任委員会開催。 青年部事業回数 71回 女性部事業回数 22回	青年部員・女性部員	指標 事業の開催回数 (達成度 143.1 %)	指標 (達成度 %)	青年部事業を通して、地域リーダーの後継者育成し、県内外問わず、同世代の仲間との交流や色々な事業経験を過程において自分を磨き、企業のまた地域の後継者としての知識の習得や人格を形成できた。 また、女性部事業では経営への参画、経営に必要な知識の習得の他、地域社会の福祉活動を行うことで経営者または経営者のパートナーとして経営力を習得した。	総合評価	A	事業実施評価の 自己評価 A 調査結果 事業者への 目標達成度 A	満足度 A 必要性 A	補足	目標 下げる 実施方法 現行どおり	企画力・事業内容を充実させ、より良い人材育成に努める。

- ※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
- ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
- ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。

労働保険事業	事業主等の委託を受けて、事業主に代わって労働保険料の申告納付その他労働保険に関する各種の届出等の事務手続を行うことにより、中小事業主の事務処理の負担を軽減し、労働保険の適用促進及び労働保険料の適正な徴収を図る。	算定基礎賃金報告書に基づき労働保険料の申告・納付(3期)。労働保険に関する各種届出の事務手続。巡回・窓口指導など従業員把握とともに、加入促進。委託事業所数 58件	従業員を雇用している商工業者	指標 委託事業所数 (達成度 101.8 %)			指標 (達成度 %)			本年度は新規成立の増加があった。これは未加入事業場の加入動向による成果である。今後も新規委託事業所の開拓が必要であるが、毎年、雇用不在から委託解除する事業場もあり、現状を維持することが今後の展開や改善点については労働局にて大きな改正等が無い限りは現行のままの予定である。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価	事業者への調査結果	満足度	補足	目標	本年度も順調に組合員数の増加に成功したが、実際は、現状を維持することが今一番の取り組みである。今後の展開や改善点については、マイナンバー制度の運用開始に伴う個人情報管理について注視が必要と感じている。なお、組合外の会員からの労災窓口相談の際に事務委託の勧奨を図る。
				目標達成度	必要性	実施方法												
				A	A	現行どおり												
税務関係団体指導事業(法人会・青甲会事業)	青色申告会・法人会等の税務支援団体・地域貢献団体の活動をサポートし、事業運営に協力することにより、国・地方公共団体、地域社会への貢献や発展の一助となり、ひいては、商工業の活性化に資する。	源泉徴収事務、年末調整事務、決算・確定申告事務を適宜開催。e-tax研修会、社長税務研修会や会員相互の交流事業を開催。各会本部や連合会及び関係団体との情報交換や連携を密にし組織強化を図る。法人会事業回数 27回 青色申告会事業回数 42回	法人会・青色申告会会員	指標 各種事業の回数 (達成度 86.3 %)			指標 (達成度 %)			所得税を中心とした、源泉や年末調整、決算書作成及び消費税等、年間をとおしての指導会の開催により会員の方の税知識の向上を図るとともに、実際の申告等の業務においても円滑な処理を行うことが出来た。	総合評価 B	事業実施評価 B	自己評価	事業者への調査結果	満足度	補足	目標	今年度は16日間申告の指導会を開催したが、徐々に改善されつつあるが、依然として後半の日程に参加者が集中してしまう傾向がある。本年も同様に2月中旬の早期提出を呼び掛け時間に余裕を持った申告処理が出来るように改善を図っていく。
				目標達成度	必要性	実施方法												
				B	A	現行どおり												
若手後継者等育成事業	若手後継者である青年部員が、地域経済の発展(マクロ)と小規模事業者の持続的な発展(ミクロ)の両面から、その課題解決に向けた取り組みを行うことで、地域経済の中心を担っていく者としての資質の向上を目的とする。	地域課題に対する取り組みとして、鳥羽市商工会議所青年部との広域連携により、鳥羽伊良湖観光交流事業を行い、その一環として青年部員やそのOBの飲食店による杜鰯と大あさり料理で料理対決を実施するほか、伊良湖にて観光交流イベント「THE対決」を行う。また、青年部員を中心とした小規模事業者を対象に事業承継セミナーを実施する。鳥羽伊良湖料理対決・「THE対決」参加者数 755名 セミナー参加者数 24名	一般参加者 小規模事業者	指標 鳥羽伊良湖対決イベント参加者数 (達成度 75.5 %)			指標 セミナー参加者数 (達成度 96.0 %)			広域的な連携を行うことにより、田原市の魅力的な地域資源をより広くPRし、地元客はもちろん、観光客の取り込みができた。また、青年部員がこれらの地域経済の問題に対し常に意識を持つ感覚を養い、その解決に向けた経験を身につけることで、地域経済の中心を担っていく者としての資質の向上が図ることができた。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価	事業者への調査結果	満足度	補足	目標	①現状維持②下げる
				目標達成度	必要性	実施方法												
				B	A	両方現行どおり												

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。